



保谷中学校の教育「5つの柱」

校長 三沢 英俊

うららかな春の日差しの中、令和4年度における保谷中学校の教育活動が始まりました。今年度も引き続き「あたたかな環境と信頼関係にもとづき、生徒一人ひとりが多様な可能性やよさを見出し伸ばして自信を持ち、自主自立につながる学校」、「個性を尊重し各自のよさを相互に高め合える学校」、「みんなで持続可能な社会に向けて課題解決を図る学校」の実現をめざします。

生徒が大人になったとき、社会で自らのよさ・強みを発揮し、堂々と生きていけるように「自主自立」の育成をコンセプトに「5つの教育の柱」を設定し、教職員が丸となり取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いたします。

1の柱 「実社会に生きて働く学力」の育成

【課題解決力】

- (1) 生徒の「興味」や自ら「学ぶ力」を引き出し、受け身の暗記・再生ではなく課題に向けて思考・判断を伴う知識・技能の活用を図り対話的に学び、生徒自身が主体的に解決を図る場面を多く取り入れる。
- (2) 目標・課題の提示と終末の振り返りを行い「主体的・対話的で深い学び」を基本スタイルとする。
- (3) GIGA スクール構想のもと一人一台のタブレットの効果的な活用により、個別最適な学びと協働的な学びの相乗効果を図る。

「あたたかな環境と信頼関係のもと、生徒一人ひとりが自らの可能性やよさを見出し相互に高め合い、持続可能な社会に向けて課題解決を図り「自主自立」を培う学校」の実現

令和4年度 「重点目標」

<5つの柱>

- 1 「実社会に生きて働く学力」
- 2 「豊かな人間性」
- 3 「キャリア形成・自己実現」
- 4 「やり抜く力・たくましい心と体」
- 5 「規範意識、及び持続可能な社会に向けて課題解決を図る力」

5の柱 「規範意識、及び持続可能な社会に向けて課題解決を図る力」の育成

- (1) 学級活動や委員会等の集団活動を通して責任と役割を主体的に担い、集団や社会のよさを実感する体験から、規範意識の醸成を図る。
- (2) 職業学習や挨拶運動・ボランティア活動等の体験を通し働く人々の役割や郷土愛等を学び、社会に貢献する意欲・意識を培う。
- (3) 「持続可能な開発目標」(SDGs)の17の目標の内、「3.すべての人に健康と福祉を」「12. つくる責任 つかう責任」「13. 気候変動に具体的な対策を」の3項目に重点的に取り組む。

2の柱 「豊かな人間性」の育成

- (1) すべての教育活動において、多様な個性を尊重する豊かな人権感覚を培い、あたたかな学びの環境の中で信頼関係を涵養する。
- (2) 自他の可能性やよさを生かし課題解決に向けて多様な人々と協働し相互に高め合う共生社会の創り手となる資質・能力を培う。
- (3) 特別の教科 道徳を全教員が担当し各々の専門性を生かし授業の質の向上を図る。

3の柱 「キャリア形成・夢の実現」の支援

- (1) 全教育活動を通して生徒自身が自己のキャリア形成を日々の学びの中で自覚し、自らの夢の実現を果たせるよう、自己のキャリア形成を意図的に図れる資質・能力を培う。
- (2) 生徒が各教科や学校の学びのよさやその意義と価値を見出し、生徒自身が自己のキャリア形成と一生涯の自己実現の過程の中でその学びを生かせるようにする。
- (3) キャリア・パスポートの効果的な活用により生徒の自己理解の深化と自覚的・意図的なキャリア形成を促し支援を図る。

*R3年度 西東京市キャリア教育研究奨励校

4の柱 「やり抜く力・たくましい心と体」の育成

- (1) 生徒が自ら創り上げる行事を成功させ、達成感や自己肯定感を育み、やり抜く力を培う。
- (2) 毎年、生徒自らが考え創り上げる準備運動「保中ステップ」を保健体育で実施し「生徒主体」のやり抜く力や体力向上を図る。

*R3年度 東京都教育委員会 体力向上推進優秀校

- (3) 各学期での「生活習慣の振り返り調査」を基とした、個に応じた指導助言による健康教育を推進する。

生徒が大人になったとき、自らのよさ・強み【資質・能力】を発揮し、堂々と生きていけるよう、未来社会の創り手となるその素地を、引き出し、培えるようにしていきたいと思えます。